

第2章 領域・教科を合わせた指導

1 生活単元学習

(1) 生活単元学習の指導内容や特性

知的障がい教育（高等部）における生活単元学習は、生徒の特性や学習上の特徴を踏まえ、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図ることを目標とした、領域と教科を合わせた指導である。

指導内容については、「2年生になって」、「3年生になって」、「心とからだ」、「生活する力」、「社会人としての暮らし方」の単元を学年ごとに段階的になるように行っている。また、行事単元として「学校祭」を設定している。

授業では、仲間たちと話し合い、学習活動の目的を共有した後、その実現に向けて役割を分担し取り組む活動を多く取り入れている。学年を追うごとに、卒業後を意識したより良く生活していく力や困難な状況を乗り越える力などを身につける学習内容になっている。

(2) 生活単元学習における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・壁新聞作成では、学級全員で協力して行い、一人一人が役割を果たしながら完成させる。
- ・パソコンの授業において、ネットトラブルに遭わないための方法を考え、グループでまとめる。
- ・性教育に関する内容のクイズにグループ全員で協力して取り組む。
- ・グループで協力して1枚のテストに取り組む。
- ・施設見学で収集した情報から一つの求人票を全員で協力して完成させる。

2 対面的なやり取り

- ・新聞の特徴について、全員で話し合い、挙げた意見をまとめる。
- ・生徒同士で話し合い、壁新聞作成の役割分担をする。
- ・困っている仲間がいる場合には、助け合う。
- ・グループでテストの解答を議論し合う。
- ・施設見学で、事前に担当する生徒を決め、収集した情報を発表する。また、収集した情報に間違いや不足があった場合は、他の生徒が担当生徒に教えたり、情報提供したりする。

3 個人としての責任

- ・生徒同士で話し合い、壁新聞作成の役割分担をする。
- ・壁新聞の作成に向けて、各自が自分の役割に責任をもち、記事をまとめる。
- ・性教育に関するクイズに答えるために、グループの中で役割分担をする。

- ・グループでテストを行う際に、役割を明確にする。
- ・施設見学のまとめの作業で、司会、記録、情報提供（発表）と個々の役割を明確にし、各自が役割を果たすことで、見学した施設の求人票を完成させる。

4 協同学習スキル

- ・個人でまとめたプリントの中から、記事の作成に必要な情報を選ぶ。
- ・個人の意見を否定しない。
- ・仲間の発言をよく聞くことや見たこと、知らせたいことについて必要な情報を確実に伝える。
- ・みんなの考えを一つにまとめて表すことができるように、集中して話を聞き円滑な司会進行ができる。

5 チームの振り返り

- ・壁新聞の進捗状況を確認するとともに、学級全員が本時の活動を振り返る。
- ・振り返りシートを用いて、本時の活動について個人の評価を行う。
- ・性教育に関するクイズに取り組んだ際のチームの正解数や話し合い時の長所と短所を振り返る。
- ・学習を通して、生徒の良かったところを紹介し、次回の単元に生かすようにする。
- ・各自が役割を果たし協力して求人票が完成できたかどうかを、生徒の司会で意見を聞いて確認することや教師の講評を聞くことで振り返る。

(3) 生活単元学習で協同学習を取り入れるメリット

話し合い活動では

- ・一人が一つの意見を出すなど決まりを設定することで、円滑な話し合い活動ができる。
- ・グループで一つの答えを導く活動では、教え合いや相談し合うことが増える。
- ・司会や記録など、役割を明確にすることで、責任を果たそうとする姿勢が育つ。
- ・生徒が司会や記録などの役割を行うことで、自身の取り組みを振り返ることができる。

制作活動では

- ・活動での目標（目的）を提示することで、一人一人が自分の役割を果たそうとする姿勢が養われる。
- ・プリントの保管を責任者に任せることで、用具管理を意識することができる。

(4) 課題点

生活単元学習では、学級単位の学習活動よりも学年単位でのグループ学習を主としている。そのため、生徒の実態差があることから、「一人1回は発言する。」や「役割を明確にする。」など、話し合い活動での細かい決まりを設定する必要がある。また、生徒の話し合い活動を円滑にするために教師がファシリテーターとなることも視野に入れ、検討する必要もある。

生活単元学習の実践例

単元・題材名 (授業名)	社会人としてのくらし方② (携帯電話の危険性)	生徒	3年生徒20名
-----------------	----------------------------	----	---------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・金銭管理や働くこと、携帯電話などの使い方など、卒後の生活に直結した知識を身に付けることができる。
- ・卒後の生活の中で、どのようなことが便利で、不便で、注意点になるのかを自分の言葉で説明することができる。
- ・自分の役割を自覚し、責任を持って活動に参加することができる。

(本時の目標)

- ・テーマ別にまとめたことを全体で発表し合い、携帯電話の危険なことや回避方法、対処方法について理解を深めることができる。
- ・協力してグループで話し合い、意見をまとめることができる。

2 生徒について

- ・積極的に発言したり、課題を真面目に取り組んだりする生徒が多い。
- ・携帯電話を卒業後に持ちたいと考えている生徒が多い。
- ・活発に話し合いを行う生徒が多いが、自発的に役割を見つけられない生徒もいる。

3 指導計画

- 第1回 12月 4日 : 社会の制度から働くことを考える
 第2回 12月 6日 : 給料の正しい使い道、携帯電話の便利性
 第3回 12月 7日 : 携帯電話の危険性 (本時)
 第4回 12月 11日 : 衣食住の自立から働くことを考える
 第5回 12月 13日 : 社会人としてどう生きていくかを考える

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・整列 ・挨拶	・スクリーンを見て、自分の席を確認してAからEグループに分かれて座る。(1グループ=4人) ・生活家庭科日直が号令を行う。	・最初のグループをスクリーンに映す。 ・生活家庭科日直に号令するように促す。	・プロジェクター ・パソコン ・パワーポイント

	・ 本時の説明	・ 本時の目標を確認する。 ・ 本時の学習の流れを確認する。 ・ 話し合うときの注意点を確認する。	・ 本時の目標を黒板に掲示する。 ・ パワーポイントを使用して分かりやすく伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ プロジェクターを使い、授業の流れやポイントを視覚的に分かりやすく提示する。(配慮⑫、⑬) ・ 後日に、まとめたプリントを一つにして配布することを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 別なテーマを各グループでそれぞれまとめて全体で発表し合い、多方面の観点から補完し合う。(①) ・ 話し終わったら、最後に「以上です。」と発言し、話し終わったことを他生徒に伝えることを確認させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 他の人の意見を聞くときには、途中で話に割り込まずに、「以上です。」という言葉聞いてから自分の意見を言うように指導する。(④)	・ 掲示用プリント
展開 85 分	・ グループ活動	・ プリントに名前を記入する。 ・ 役割分担をする。 4 名ずつの 5 グループ、司会、記録、発表（危険性の発表 1 名と回避方法と対処方法の発表 1 名）	・ プリントを配布する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 授業展開に沿ったプリントを使用して見通しを持たせる。(配慮⑭) ・ 役割について説明し、グループ内で担当を決めること伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 話し合いで、全員が何かの役割を持てるようにする。(③)	・ プリント ・ 白板 ・ パワーポイント

	- 各グループのテーマに対する危険なことと回避方法、対処方法を個人でまとめる。 A：キャッシュレス決済 B：依存症 C：ラインやメール D：個人情報流出 E：破損紛失 - 個人でまとめた意見を基に、各グループで話し合う。 - 前半の話し合いを振り返り、グループで評価する。 - 後半に向けて、改善する。 - 各グループのテーマ別にグループでの話し合いを再開する。	- 自分の意見を箇条書きで書いてまとめるように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> - 生徒が自分の意見をまとめられないときは、意見が出るように言葉掛けをして意見を引き出す。 (配慮⑨) - 発言するときは、相手が「以上です。」と言ってから話すことを再度確認させる。 <協同学習の要素や配慮事項> - テーマに沿って、グループの全員が意見を出し、話し合って一つの意見にまとめる。(②) - 自分の役割を果たしているかを確認する。 <協同学習の要素や配慮事項> - プリントの項目に沿って、自分のグループの話し合いや発表をグループで評価する。(⑤) - 話し合うときの注意点を再度確認させる。適宜言葉を掛ける。 <協同学習の要素や配慮事項> - 前半の話し合いよりも良くなるように、改善しながら話し合う。(②)	
・発表	・まとめたことを発表する。	- みんなに見える位置に移動して発表させる。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話す人の顔を見て聞くように指導する。(④)	・デジカメ

		・他グループのテーマに関する意見を聞き、より深く学習する。	・後日の配布資料として、白板をデジカメで撮影する。	
整理 5分	・振り返り ・挨拶	・グループで、後半の話し合いで良かったことや改善点を話し合う。 ・生活家庭科日直が号令を行う。	・グループでの活動をグループで評価する。 ・個人の評価ではないことに気を付けさせる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・前半の評価と後半の評価を比べて評価する。(⑤) ・時間があれば、その評価を全体に発表させる。 ・全体の評価を話し、後日グループでまとめたことを配布することを伝える。 ・生活家庭科日直に号令するように促す。	・プリント

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

携帯電話の危険性を5つのテーマ別に分けて、一つのテーマに一つのグループが担当するように設定した。その後、それぞれまとめたものを5グループが発表し合い、テーマ別の携帯電話の危険性とその回避方法を全員で学び合うように設定した。

② 対面的なやりとり

グループ活動の前に個人の意見をまとめる時間を設定した。その意見を基にグループ活動における対面的なやりとりがスムーズに行えるようにした。また、指導者が適宜言葉掛けを行うことで、よりスムーズなやりとりもできるように設定した。

③ 個人としての責任

1 グループの4名全員に司会1名と記録1名、発表2名の役割を与えるように設定した。グループ内で、話し合い役割の担当を決めることで、個人に責任を持たせ協力して課題を解決するように促した。

④ 協同学習スキル

分かりやすく話すスキルを身に付けるために、話し合う内容を事前にプリントにまとめさせる。話をしている最中に割り込まないように話し終えたときに、「以上です。」と付け加えることで話が終わったことを他の人に伝えるようにする。

⑤ チームの振り返り

グループ内で評価する時間を設けるために、グループでの話し合いの内容を精選した。また、チームの振り返りがスムーズにできるように、振り返るポイントをプリントで配布し、短時間で振り返りもできるように工夫した。

6 指導の効果

導入や展開の流れの区切りのときに、時間配分を含めた授業の全体の流れを視覚的に確認しながら進めたことで、見通しをもちながら活動することができた。また、テーマ別にそれぞれのグループが話し合いまとめ、それを発表し合うことで全員がすべてのテーマを学習することを明確にしたことで責任感が増し、目標に向かって各グループで一つのテーマをまとめる活動より積極的に取り組むこともできた。さらに、話し合いの前に自分の考えをまとめる時間を設けたので、話し合いの活動がスムーズに行うこともできた。展開の始めには、グループ内で相談しながら個人の役割を分担したことで、より個人が責任を持って役割を果たすことができた。

話し合いの内容を精選することで、時間にゆとりが生まれてグループでの話し合いを十分に行うことができた。前半のグループの話し合い後に、振り返りの場面を設定したことで後半に向けての改善する方法を見付けて、後半の話し合いに生かすことができた。

7 今後の課題

グループで担当したテーマをまとめたことを発表し合い、全てのテーマを学ぶように設定した。しかし、発表の時間が少なすぎて互恵的な相互依存関係の良さが余り発揮されなかった。授業全体を通して、話し合いの時間に余裕があったので、話し合いの時間を少なくして発表の時間の配分を多くする必要があった。このようにすることで、より発表し合いながら全員で深く学ぶことができると考える。

協同学習スキルの設定では、相手の話を最後まで聞くために話の終わりに「以上です。」と付け加えることを全員に指導したが、相手の話を最後まで聞ける生徒にとっては、逆行した指導になってしまった。生徒の実態別にグループ分けを行っていたので、グループ別での協同学習スキルを設定した方が、より生徒のニーズに合ったスキル向上につながったのではないかと考える。

※ 授業を振り返って

協同学習を行ってみて、題材の設定が何よりも重要であることを実感した。題材が難しすぎると話し合いに時間を要して振り返りができなくなり、簡単すぎると話し合いが速く終わり時間を持て余してしまうからである。生徒の実態をしっかりと把握して、題材を決定しなければいけないと考える。また、前回の協同学習はジグソー学習を取り入れた授業を行い互恵的な相互依存関係を設定したが、グループを変更して再度話し合うと時間が掛かりすぎてしまい、十分な振り返りを行うこともできなかった。グループを組み変えて発表する展開を全体で発表する展開に変えて行うことで、グループで題材をより深く話し合う時間と振り返りを行う時間が十分に確保することができた。個人の責任については、グループ活動を行う前に自分の役割を決めることができたので、全員が責任を持って役割を果たすことができていた。

協同学習を行うことで、生徒が主体的に活動して深い学びを得ることができる手応えを感じた。生徒の実態に合った題材や協同学習スキルの設定や振り返る時間を確保するための時間配分を改善することで、より良い協同学習になるように改善を続けていきたい。

2 作業学習

(1) 作業学習の指導内容や特性

作業学習の目標は、勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てることである。

働くことの意義を理解し、作業や実習に取り組み、働く喜びを味わい、道具や機械の操作に慣れるとともに、材料や製品の扱い方を身に付け、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。また、コミュニケーション力として、自分の分担に責任をもちつつ、他の者と協力して作業や実習をすることも必要である。

さらに進路実現へ向けて、働くことの意義について理解を深め、積極的に作業や実習に取り組み、職場に必要な態度を身に付ける。そして、道具や機械の仕組み、操作などを理解し、材料や製品の管理を適切に行い、安全や衛生に気を付けながら正確に効率よく作業や実習をすることも重要であり、個に応じた指導していく必要がある。その中でも、生徒の実態に即して、生活に結び付いた効果的な指導を行うとともに、生徒が見通しをもって、意欲的に学習活動に取り組むことができるよう配慮することも必要である。

(2) 作業学習における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・組織図で仕事の流れを示すことにより、全員で協力して仕事をしなければ達成されない目標に取り組む。
- ・「釉がけから修正までを中学生に教える。」というような、周りの状況を見ながら協力して動かなければ達成されない目標に取り組む。
- ・製品の納品数と期日を伝え、その目標へ向けて、協力して取り組む。
- ・時間内に釉がけから修正までを終えるという目標を設定して、全員で協力して取り組む。
- ・危険予知訓練を行い、班ごとや全員で一つの安全目標を決定する。
- ・生産したタマネギを、各工程（検品、計量、ネット詰め）に分かれて流れ作業を行い、全員で販売製品を完成させる。
- ・温室掃除について、床を掃く係、除草係、壁を拭く係の3つの係に分かれて作業を行い、全員で掃除を終えさせる。
- ・班長の指示により全員で道具の準備に取り組む。

2 対面的なやりとり

- ・進捗状況を見て、遅れている係が自ら手伝いを求めたり、自ら遅れている係へ手伝いを行ったりする。
- ・係内で進捗状況の確認をさせ、作業効率を高めさせる。
- ・全員や班で話し合う時間を設け、役割分担や道具の配置、工程ごとの開始時刻など、効

率の良い進め方を考えて決めさせる。

- ・理解の比較的高い生徒をリーダーとして率先して発言させ、その流れに乗るように理解の比較的低い生徒も発言できるようにする。
- ・目標時間を守れるように互いに声を掛け合って作業を行わせる。
- ・ブレインストーミングを活用して、発言が苦手な生徒には、仲間の意見を参考にして自分の意見を述べさせる。
- ・各自の考えた意見を発表し、意見交換させる。
- ・班で話し合って、班で良いと思った考えを5つ以上挙げさせる。
- ・積極的に発言をするのが難しい生徒同士や普段あまりコミュニケーションを取っていない生徒同士で班を構成し、意見交換させる。

3 個人としての責任

- ・流れ作業で、各工程を個人やグループに担当させる。自分の工程が止まると、他の工程も止まったり、全体の生産数が減少したりするなど全体に影響があることや個人の仕事が完了することでチーム全体の仕事が達成されるという仕事の流れを伝え、自己責任の理解を促して作業させる。
- ・担当になった係の仕事が完了するまで責任をもって行わせる。生徒の実態に合わせて意図的に仕事量を調整する。
- ・班として効率よく作業するために、個々の得手不得手を含めて自分たちで考えて役割を決めさせ、それぞれの役割に責任を持たせる。
- ・作業の終わりにまとめている個別の「到達レポート」で、現時点の習得状況を確認させ、各自に次回の目標を考えさせる。
- ・自分の仕事が遅れているときには、空き時間や休憩時間にも仕事をさせる。
- ・一人1回以上発言する形を繰り返し行い、個々の責任を意識させる。
- ・個々の生徒が気になったことを何でも発言しても良い形を設定し、一人1回以上発言させる。
- ・発言をしやすくするための具体的な例文をワークシートに掲載し、全員の発言を促す。

4 協同学習スキル

- ・必要な情報を、仲間や指導者に自分から聞く。
- ・困ったときに自分から助けを求める。
- ・同じ班の仲間が状況に応じて助けるなど、他の人のためにできることは何かを考えて動く。
- ・仲間が作業をしやすくなるように、考えながら発言する。
- ・進捗状況を把握するための必要な情報を互いに伝え合う。

- ・自分の好み（視点）ではなくお客さんの立場に立った物づくりを意識して活動する。
- ・意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒のために、ブレインストーミングを活用して、他人の意見を否定しない話し合いを行う。
- ・話し合いでは、笑顔で接することや敬語で話すこと、意見が異なっても良いことを理解して、意見を出しやすい環境を作る。

5 チームの振り返り

- ・作業日誌やワークシートに記入し、個別に振り返りを行わせる。
- ・全体場で、自己評価を生徒に述べさせる。
- ・各自で振り返りを行った後、全体でその意見を共有して全体として振り返りを行う。
- ・毎回、到達レポートを書き、課題や進捗状況を振り返り、確認させる。自分の課題を毎回確認させることで次回の目標を明確にさせ、意欲を持たせる。
- ・良い部分や課題となる部分を教員から伝えて、次回の課題を意識させる。
- ・目標を達成するための動きと時間の使い方を反省の中で伝える。
- ・今回の状況を解説し、次回はどのようにすればより良くできるかを考えさせる。
- ・良くできていた例を生徒へ伝える。
- ・報告・連絡・相談に重点を置いた細かな視点でフィードバックし、生徒自身に今後の課題を気付かせる。
- ・今回の目標を教員とともに確認し、自分自身と全体の評価をさせる。

(3) 作業学習で協同学習を取り入れるメリット

制作活動では

- ・自分が担当している仕事がどれくらいあるのかを把握していることで、時間の使い方や働き方に良い変化が感じられるようになる。
- ・遅れている係の手伝いを行ったり、言葉掛けをして状況を判断したりして自ら手伝いを行うことができる。
- ・仲間の仕事を観察し、効率が良い方法を相談しながら行うことができる。
- ・同じ仕事内容の仲間と合図を出し合い、協力して行うことができる。
- ・繰り返し制作することで、個別の仕事や仲間との協力など、経験を生かして活動することができる。
- ・今回行ったことを、異なる作業内容にも応用して作業を進めることができる。
- ・仲間と協力して仕事を時間内に終わらせることができる。
- ・制作活動に必要な報告・連絡・相談を行うことができる。
- ・自分の働きを振り返り、内容を仲間と共有できる。
- ・自分の考えを伝えなければ作業が進まない状況を設定することで、相手の意見を聞き入れるこ

とや相手の気持ちを考えて発言することが徐々にできる。

- ・学年が上がるにつれて、より具体的で細かな点を意識させる学習ができる。
- ・振り返ることで生徒自身が今後の課題に気付き、口頭や文章で表現することができる。
- ・係決めや道具の準備をスムーズに行うことができる。
- ・流れ作業では、各係の状況を意識しながら個人で役割を果たし、作業に取り組むことができる。
- ・全体や班で目標を共有できる。
- ・到達レポートを用いることで、前回と今回の出来高の違いや現在の到達度を自分で確認して、作業を進めることができる。

話し合い活動では

- ・生徒自ら「今の言い方で大丈夫ですか。」という質問をするようになるなど、自分が話す言葉に注意を払うことができる。
- ・自ら発言しようとする姿勢やみんなで協力しようとする姿勢が全員に見られる。
- ・仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができる。
- ・発言が得意な生徒と苦手な生徒を同じ班にすることで、助け合い、活発な意見交流が見られる。
- ・振り返りをする中で、「時間を守れた。」「意見をたくさん言うことができた。」と感想を述べる機会があり、達成感を全員で味わえる授業を展開できる。
- ・作業開始時の作業内容を仲間同士で相談する時間に、活発な発言が見られる。
- ・班長や指導者に対し報告、相談など必要なコミュニケーションを取ることができる。
- ・班長を中心として、生徒間で「質問する」、「伝える」ということが随所に見られる。

(4) 課題点

班の話し合いに加わるのが難しい生徒には、必要な情報は誰かが教えてくれるのを待つのではなく、自分から聞きに行くためのコミュニケーションの指導や支援が必要である。また、文章をまとめることに課題がある生徒には、ワークシートに反省を書くための支援や話し合いの流れや結論を視覚化し共有できるような配慮、話す目的や場に応じた言い方で話すような促し、不適切な場合は教師が改善のポイントを示し言い直しを促すなどの支援も必要である。そして、自分の意見を言うことが難しい生徒には、言葉を言い換えるための補助などを行い、繰り返し練習をしていくことも必要になる。

「何を」、「誰に」、「どのような言葉で」という状況に応じて必要なことを選択し、言葉にすることが難しい生徒が多い場合は、説明の仕方についての指導や支援が必要となる。また、声が小さいことで周りの生徒に意見が伝わらなく共通理解が難しい場面がある場合は、協同学習以外でも、自信を持って自分の意見を伝えることができる指導も行う必要もある。さらに、人前で話す経験やコミュニケーション力に差がある場合は、発表の場や相談の場を多く設ける指導も必要である。

仲間との相談をしやすくするために、班編成をする際、能力的に同程度の生徒をまとめる必要がある。また、実態差がある生徒同士をチームにして、理解力の比較的高い生徒に負担がかかってしまった場面もあった。全ての生徒の学びになるように、それぞれの生徒の個別の課題に対するアプローチをより明確にしなければならない。さらに、班長を中心とする活動では、班長の実態に合わせた仕事量（技術面やコミュニケーション）の調整をする必要もある。

作業学習の実践例

単元・題材名 (授業名)	縫工 ステンシル布巾 (KYT 安全な作業について第2回)	生 徒	家庭総合科1年生8名
-----------------	----------------------------------	-----	------------

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・体験的な学習や生産学習を通して勤労の体験を豊かにし、その意義を理解させる。
- ・安全に留意しつつ、仲間と協力して作業することができる。

(本時の目標)

- ・仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができる。
- ・安全に対する意識を高め、安全行動目標を決定することができる。

2 生徒について

- ・話し合いの際に発言を得意とする生徒が5名、仲間からの誘導があると発言できる生徒が3名在籍している。
- ・他の学習でブレインストーミングを学習しているが、意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒が多い。
- ・発言を得意とする生徒が率先して発言し、その流れに乗るように周りの生徒が発言することが多い。

3 指導計画

第1回 9月14日 : KYT 安全な作業について①

第2回 12月13日 : KYT 安全な作業について② (本時)

第3回 1月18日 : KYT 安全な作業について③

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	・始業挨拶 ・本時の説明 ・前時の復習	・日直に合わせ挨拶する。 ・本時の学習内容と流れについて理解する。 ・前時の活動の良かった点と課題点について確認し、本時の目標を知る。	・日直に号令をかけさせる。 ・前時と活動の流れが同じであることを確認させる。 ・前時の話し合いの思い出させるためにKYTシートを見るよう促し、話し合い時のルールと本時の目標を確認させる。	・前時のKYTシート
KYTシートとは 職場や作業の状況を描いたイラストシート。				

		商品企画会議と同様に話し合いの心得を確認する。	- 話し合いの心得を掲示する。 <協同学習の要素や配慮事項> - 前時を振り返り、前回同様に全員で本時の目標を達成できるように全員の協力を促す。(①)	
展開 55分	- KYT開始 - 現状把握	- KYTシートを見る。 - 各自で画像の危険な所を見付けて記入する。	- KYTシートを配布する。 - 各自考えたあと、周囲の仲間と答えを確認させる。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話し合い学習の前に自分の考えを明確にし、円滑に意見を交流できるようにする。(③)	- KYTシート - 個人シート
		- グループの役割を決める。 - グループで話し合いをする。	4人グループでの進め方やルールを確認をし、どのような役割が必要か問いかけ、役割を決めさせる。 - 各自の考えた危険なところを発表し、意見交換する。 - グループで5つ以上危険なところを挙げる。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話し合いや発言が得意な生徒と苦手な生徒を同じグループにすることで助け合いを促す。(②) - 個々の役割を明確にさせる。(③)	- グループシート - 役割表示
	本質追求	意見をまとめて一番危険な場所を決める。	- グループで1番危険な場所を一つに決めるように促す。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話し合いの流れや結論を視覚化し共有できるようにする。(配慮⑬)	
	対策樹立	- 各自で安全対策を考えて記入する。 - グループで話し合いをする。	- 現状把握と同様に安全対策を各自で考える。 - 同様にグループで意見交換し、5つ以上対策を挙げる。	

	・目標設定 ・目標確認	・意見をまとめ、最適な安全対策を決める。 ・端的なフレーズにする。 ・全員で指差し呼称する。	<協同学習の要素や配慮事項> ・話す目的や場に応じた言い方で話すよう促し、不適切な場合は教師が改善のポイントを示し、言い直しを促す。(④、配慮⑨) ・グループで最適な安全対策を一つに決めるように促す。 ・決定した対策を単語や短い文章に要約できるように状況に応じて助言をする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・うまく発言や進行ができた場合は、そのポイントを全体に伝えた上で称賛する。(④、配慮⑩⑪)	
整理 10分	・振り返り ・まとめ	・記入表へ自己評価を記入する。 ・グループ内で意見交流する。 ・グループ間交流をする。	・自分の意見を言えたか、仲間の意見を認め合うことができたかなどを評価し、記入する。 ・グループ活動の感想を発表させ、教師からの評価を伝える。 ・代表に安全目標と感想を発表させ、講評を伝え、互いにどのように感じたかを発問する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・今回の状況を振り返らせ、話し合いが次回よりよい話し合いや発言ができるかを考えさせる。(⑤) ・良くできていた例を生徒へ伝える。(⑤)	・個人シート
清掃 10分	・簡易清掃	・使用した場所のみ清掃する。	・全員で話し合い、役割分担を決めさせる。 ・各自、担当箇所の清掃をする。	
反省 5分	・次時予告 ・終業挨拶	・次回の学習内容を知る。 ・日直に合わせ挨拶する。	・別の話題で話し合いを行うことを伝える。 ・本時の学習プリントを全て回収する。 ・日直に号令をかけさせる。	

作業 日誌 15分	- 作業日誌 - 更衣	- 教室へ移動する。 - 本時を振り返り作業日誌を書く。 - 日誌を提出する。 - 着替える。	- 教室へ移動させ、日誌を書かせる。 - 個別に提出させ、評価を口頭で伝える。 - 制服へ更衣を促す。	作業日誌
-----------------	--	--	---	--

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

話し合いのまとめをするのは司会や発表に限らないことを伝え、グループ全員で一つの結論を出そうという意識を持たせるようにする。

② 対面的なやりとり

生徒の読解力やコミュニケーション力には差があるが、一つの目標に向かって互いに協力できる関係づくりを目指し、半数の4名を1グループとして話し合いがスムーズに行われるようにグループを設定した。読解や発言が苦手な生徒には教師が言葉掛けをしながら話し合いへの参加を促進する。

③ 個人としての責任

発言を促すための材料として、具体的な例文を訓練シートに掲載し、一人1回以上発言することを目標に設定した。また、全員が話し合いに参加するという意識や互いに話しやすい環境づくりを意識できるように前時にも経験しているブレインストーミングを引き続き取り入れ、各々が気になったことを発言する形とする。

④ 協同学習スキル

意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒が多いため、他の学習でも活用しているブレインストーミングを意識させて取り組ませた。しかし、まだ理解できていないと思われる場面も予想されるため、笑顔で接して敬語で話すこと、意見が違っていても良いことを改めて指導する。また、言い方が分からなかったり考えがまとまらなかったりする生徒がいた場合は、個別に言葉掛けをして自ら考えられるような働きかけをする。

⑤ チームの振り返り

授業の最後に話し合いを振り返らせ、自分の役割は果たせたか、適切な言い方で1回以上発言できたか、安全意識を高めることができたかなどを自己評価させる。また、グループ間での相互評価や教師からの講評を受けることによって、グループや自分の良さや課題に気付かせる。

6 指導の効果

話し合いでは、教師の予想どおり発言を得意とする生徒の主導となったが、その流れに乗って発言を苦手とする生徒が自分の意見を言えることができており、活発な意見交流が見られた。先に個人シートへ書き、それからグループシートを書く流れも良く、話し合いで自分の意見を言うのが難しい生徒も個人シートを見ながら発言することができていた。グループでどのような役割が必要かを問いかけた場面では、両グループとも話し合いを進める人、グループシートに書く人が必要であると返答することができ、すぐに役割分担することができていた。また、商品企画会議で使用している話し合いの心得「笑顔と、敬語で、ブレインストーミング」を用いて注意点を再確認したが、用紙で確認する必要があるくらい生徒に浸透しており、活動の中でほとんどの生徒が意識しており実践できていた。

安全意識の向上も発言の中に表れていた。実際の作業の中でのKYTは次回以降の学習の予定だったが、両グループとも生徒自らが、縫工実習室の棚の設備や自分たちの作業学習で行うことがある高所からの荷物運びと結び付けて考えることができていた。

個人の振り返り用紙を見ると、8人中7人が、安全意識を高めることができ、8人全員が一つ以上自分の意見を言えたと、記入されており、目標をおおむね達成することができた。また、「時間を守れた。」「意見をたくさん言うことができた。」と感想を述べており、達成感を味わえる授業を展開できた。

7 今後の課題

KYTシートでのKYTを2回行い、絵を見て危険箇所や安全対策を考えることが上達したため、次回はシートではなく、実際に行う作業の一場面を行って見せて、より実践的な活動にしていく。その場合、記入用紙を使用せず、口頭のみで短時間で行えるように練習することで、比較的容易にKYTを行えるようになる。これが最終形であり、本学習の目指すところである。

自分の意見を言うことが難しい生徒がいるため、短時間で行う話し合いでは、個別に支援を行い、繰り返し練習をしていくが必要になる。また、KYTの趣旨の理解が難しく、「宇宙人が来て、びっくりして椅子から落ちてしまう。」といった意見を述べる生徒もいたため、なぜこのような学習をしているのかをかみ砕いて説明するとともに、日頃の作業学習に結び付けて考えられるように個別にアドバイスをし、理解度を深めていく必要がある。

※ 授業を振り返って

「地震が起こるとキャビネットが落ちて怪我をするかもしれない。」「高所作業は、背が高く重たいものを持てる男子が行った方がよい。」など、KYTシートから読み取るのが難しいと思われることを自由な発想や多角的な視点で想像できていた。これは、安全対策だけでなく、商品開発や様々な話し合いに生かせる能力である。協同学習を繰り返し行うことにより、コミュニケーション力の向上とともに、仲間の知識や考え方を全体で生かしたり、自分の新たな知識として獲得したりすることができるようになってきたと感じた。今後も生徒の能力向上に役立ち、協同学習を組み込むことのできる教材開発をしていきたいと考える。また、発言の内容やリーダーシップなど、生徒の成長が見られる場面が多くあり、称賛の言葉を多くかけることもできた学習内容でもあった。

今回の研究授業を生かし、今後も授業づくりや指導方法の改善と充実を図りたい。